

# 伝承館のご紹介

震災の出来事や教訓とすべきことを伝えるとともに、災害から未来の命を守るための防災学習を推進する。

そんな「いのちをつなぐ未来館」で語り部を担当する方に、同施設の見どころをお聞きしました。



鶉住居駅から  
徒歩1分



名称	いのちをつなぐ未来館
所在地	岩手県釜石市鶉住居町4丁目901番2
TEL.	0193-27-5666
WEB.	<a href="https://www.unosumai-tomosu.jp">https://www.unosumai-tomosu.jp</a>

## 震災を自分事と意識する

当館の見どころは、より地域にフォーカスした展示内容です。震災時、釜石市内の小学生・中学生の生存率は99.8%でした。震災以前から学校が防災教育に力を入れていた結果です。今後も学校だけでなく地域全体として防災意識を高めていくためにも、取り組み方や学び方、準備に関することを伝えています。

震災の事実に触れても、どこか客観的に他人事として受け止めている方もいまだに多くいらっしゃると感じます。災害は、自分を含めて誰にでも起こりうるということをわかっただけのよう、私たちはメッセージを発信し続けます。当館へお越しの際には、自然と共存している釜石市の美しい景観もぜひお楽しみください。



川崎 杏樹 様

# 伝承館のご紹介

気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館は、将来に向けて震災の記憶と教訓を伝え、警鐘を鳴らし続ける。

そんな「気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館（旧気仙沼向洋高校）」で語り部を担当する方に、同施設の見どころをお聞きしました。



名称	気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館
所在地	宮城県気仙沼市波路上瀬向 9-1
TEL.	0226-28-9671
WEB.	<a href="https://www.kesennuma-memorial.jp/">https://www.kesennuma-memorial.jp/</a>

## 地域住民の全世代で語り継ぐ

ここ気仙沼市は、懸命な復旧活動のおかげで震災の傷跡が見えないほどまで回復しました。それゆえに当館では津波の爪痕をあえて残し、自然の脅威や命の尊さを伝えています。来館者に事実を見て、感じて、受け止めていただくことが一番大切なので、我々語り部は“語りすぎない”よう意識しています。

また当館の語り部は地元の方々に随時募集をかけており、中学生・高校生もこれまで80人ほど協力してくれました。子どもたちは小さな頃の被災の記憶と、地域の大人にインタビューした内容をもとにシナリオを作り、真剣に伝えています。今後も児童や生徒に参加してもらうことで、子どもたちに防災意識を継承し、震災の風化防止に寄与していきます。



近藤 公人 様

# 伝承館のご紹介

これまで国内で経験したことのない甚大かつ複合的な災害の記録と記憶を、防災・減災の教訓として、みらいへつないでゆく。

そんな「東日本大震災・原子力災害伝承館」で語り部を担当する方に、同施設の見どころをお聞きしました。



双葉駅から  
バスで約5分



名称	東日本大震災・原子力災害 伝承館
所在地	福島県双葉郡双葉町大字中野高田 39
TEL.	0240-23-4402
WEB.	<a href="https://www.fipo.or.jp/lore/">https://www.fipo.or.jp/lore/</a>



## 忘れずに伝える責任がある

当館は2020年9月にオープンしました。震災や原発事故の被害状況と、避難を含めたその後の対応などを紹介しています。我々の伝えたいテーマは大きく2つ。まずは「命を守る」。地震や津波の発生時に生き延びるすべを覚えて帰っていただければ幸いです。そして2つ目は「未来のエネルギー」。原発事故による被害は深刻なもので、いまだ故郷に帰れない方も多く存在します。そんな現実を踏まえ、今後私たちが利用すべきエネルギーは何か、を共に考えるきっかけになればと考えています。

私は当館に勤める前まで、我々被災者にはツラかった経験を「忘れる権利がある」と考えていました。しかし災害はいつどこで起こるか分かりません。だからこそ、今後被災する可能性のある人たちへ、我々の体験を「忘れずに伝える責任」があると思っております。



泉田 淳様